http://www.edu.pref.kagoshima.jp/　（通巻第１５５９号）

指導資料

鹿児島県総合教育センター

特別支援教育　第146号
－小学校・中学校・高等学校対象－
平成19年５月発行

通常の学級における特別な教育的支援を必要とする児童生徒のニーズにこたえる授業づくり

平成17年度，当センターの調査によると，小・中学校の通常の学級において，学習面・行動面に困難を有する児童生徒の割合が，全児童生徒数の6.5パーセントに上ることが明らかになった。

また，学校教育法が一部改正され，小・中学校等においては，平成19年度から学習障害（ＬＤ）・注意欠陥多動性障害（ＡＤＨＤ）等を含めた障害のある児童生徒に対して適切な教育を行うことが規定された。小・中学校では，特別支援教育コーディネーターの指名や校内委員会の設置などの校内支援体制が整いつつある。

しかし，当センターの調査結果によると，個別の指導計画の作成は，３割の学校にとどまっている状態である。また７割の学校が，具体的な対応や支援の方法が特別支援教育を進めるに当たっての課題であるとしている。学校では，児童生徒に何らかの支援が必要であると気付きながらも，具体的な対応や支援については，試行錯誤の状態であることが推察できる。

そこで，本稿では通常の学級における特別な教育的支援が必要な児童生徒のニーズにこたえる授業づくりについて述べる。

１　授業づくりの流れ

特別な教育的支援を必要とする児童生徒の授業づくりに当たっては，図１のような流れが考えられる。中でも，児童生徒の困難さに関する実態については，学力の状態を把握する学力検査（NRT，CRTなど）や知的発達の状態や認知能力を把握する心理検査（WISC-Ⅲ，K-ABCなど），行動上の困難さを把握する「チェックリスト」などを使って詳細に把握することが大切である。また，実態に対応して，だれが，どの場面で，どのように支援するのか，どのような配慮を

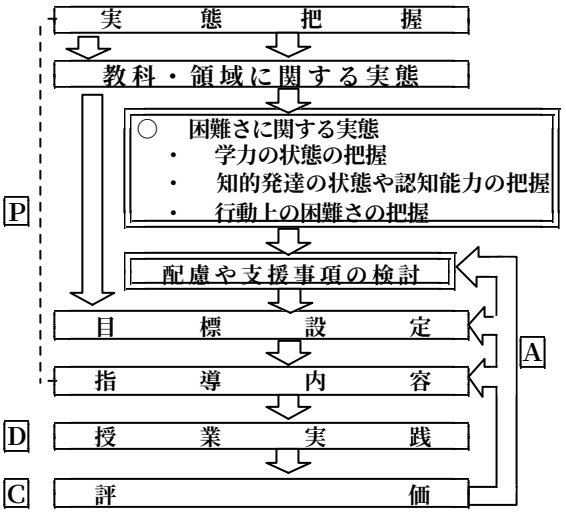

図１　授業づくりの流れ

するのかを具体的に検討することが必要である。

このように，児童生徒のニーズに応じた配慮や支援事項を検討したうえで，目標設定，指導内容の吟味，授業実践といった流れで進めることになる。また，授業実践の評価については，配慮や支援が適切であったか否かについても詳細に検討し，次の授業の改善に生かすようにする。授業においてはＰ－Ｄ－Ｃ－Ａサイクルを活用し，常に改善に努めることが大切である。

２　授業づくりの配慮事項

授業づくりに当たっては，基本的に次のような配慮をすることが大切である。

(1) 集中できる教室環境

児童生徒が，様々な刺激に惑わされることなく授業に集中するためには，教室内がすっきりと片付けられ，落ち着いた雰囲気になっている必要がある。そのため，教室の前面の掲示物を精選したり，色彩を淡くする等の工夫をしたりする。また，特別な支援を必要とする児童生徒の座席は，個別に支援をするためにも，教師に注目しやすい教卓に近い位置が望ましい。

(2) 心の安定を図るための手だて

手順が毎回違ったり，次に何をすればいいのか見通しが立たなかったりすると，混乱してしまう児童生徒もいる。そのため，手順はできるだけ固定することが重要である。また，学習の流れを示し,終わった活動は図２のように線を引いて消すことで学習に見通しをもち，心の安定を図ることができる。

学習の流れ
~~1　復習をする。~~
2　めあてを書く。
3　計算する。
4　文章題を解く。

図２　手順(例)

(3) 意欲をもたせるための賞賛

困難のある児童生徒の中には，今までの経験から自信を喪失している者も少なくない。そこで，学習内容や活動について，どこでつまずいているかを明らかにし，スモールステップで指導し，褒める機会を増やし，達成感を繰り返し味わわせたい。また，児童生徒のよさを生かすようにし，意欲をもたせるようにしたい。

(4) 分かりやすくするための単純化・明確化

授業を分かりやすくするためには，児童生徒の特性，例えば視覚情報処理と聴覚情報処理のどちらが得意か等を把握した上で，教材・教具を工夫することが大切である。

具体的には，指示は細分化し１回に一つずつ具体的に示したり，発問は十分吟味し大事なことに限定したりするなど単純化，明確化を心掛ける。また，指示・発問の際は，文字や絵，図などを補助的に使用し，分かりやすい方法を工夫する。

これまで述べた特別な教育的支援を必要とする児童生徒への配慮は，障害の有無にかかわらず，すべての児童生徒にとっての困難さを軽減するものとなる。授業の中で準備されたプリント等は，それぞれの児童生徒のニーズに応じて，学級のだれもが選択し活用できるものでありたい。また，その配慮について，学級の全員で認め合えるという学級経営が望まれる。

3　小学校における授業の実践例

特別な教育的支援を必要とする児童(Ｂ児)が在籍したと仮定して，５年生の学級における，国語「わらぐつの中の神様」(光村図書　５年　下）の授業場面について紹介する。

(1) Ｂ児の実態

ア　45分間，集中して授業を受けることが難しい。
イ　読むときに，行をとばしたり，読み間違ったりしてしまうことが多い。
ウ　読んだり書いたりするのに時間がかかる。
エ　作文は苦手である。
オ　聞くよりも見る方が理解しやすい。

(2) Ｂ児への支援方法

ア　集中できる時間を考慮し，体を動かすことで気分転換ができるようにする。また，切る，はるなどの課題を明確にした活動ができるようにする。
イ　読む行だけが見えるようにしたカバーシートを使用し，行をとばして読まないように工夫する。
ウ　必要な部分を探し出す時間を短縮するために必要部分を抜き出し，分かち書きにしたプリントやワークシートを準備する。
エ　関係する発問に応じて，一つずつ質問に答える形でカードに文を書くことで，文を書くことの抵抗感を減らす。
オ　補助的に絵や写真などを使うことで，内容を見て分かりやすくする。

(3) 本時の実際（７/10）

○　全体目標
- マサエの心情の変化に気付き，主題の大体をとらえ，自分なりの考えをもつことができる。

○　個別目標
- マサエの心情の変化が分かる文をプリントから探し，ワークシートに記入することができる。
- 短文を作ることができる。

※　指宿市立川尻小学校　上野大輔教諭の指導案を基にＢ児への支援方法を加筆

過程	主な学習活動	時間	教師の働き掛け(評：評価の観点)	Ｂ児への支援方法
つかむ	1　前時までの学習を想起する。 ・　おみつさんと若い大工さんの心の通い合い。 2　本時の段落を音読した後，学習計画表から本時の課題を設定する。 マサエの心は，どのように変わったか。	分 3	・　さし絵をもとにそれぞれの心情を想起できるようにする。 ・　音読し，粗筋をつかむことができるようにする。 ・　学習計画表や初発の感想表から本時の課題を設定し読みの視点に気付くことができるようにする。 ・　児童の意見を焦点化し，課題を設定する。 評　学習課題を設定することができたか(発表)。 →学習計画表に着目させる助言	(ア～オは，「(1) Ｂ児の実態」「(2) Ｂ児への支援方法」と対応) イ　カバーシートを使って読んでいる行が分かるようにする。 オ　会話文には，登場人物ごとに異なる色のシールをはって見やすくしておく。 ア　めあてカードとワークシートを教卓に取りに行き，めあてカードをワークシートにはり，めあても意識できるようにする。
見通す	3　課題を解決するための手だてを考える。 (1) 場面が現在になっていることを理解する。 (2) 一の場面のマサエのわらぐつに対する心情を確認する。 (3)マサエの心情の変化を読み取るための方法を確認する。 ・　登場人物の心情の分かる部分に線を引く。 ・　ノートに心情を書き出す。	4	・　文章構成表や文脈の変化から場面が現在に戻っていることに気付くことができるようにする。 ・　気持ちの変化を読み取るために一の場面を想起できるようにし，読みの視点を与える。 ・　今までの学習を生かし，読み進めることを確認できるようにする(線を引く視点を確認する，心情を書き出す)。 評　課題を解決する方法を理解できたか。 (挙手) →前時までの学習を想起できる助言	オ　三の場面が現在に戻っていることに気付くことができるように，さし絵を使う。 ウ　一の場面を抜き出したプリントを用意し文章から必要な部分を探し出す時間を短縮し，考える時間を多く取る（図３）。 ア　学習の方法カードを，教卓に取りに来てワークシートにはる場面を設定し，気分転換ができるようにする（図４）。
	4　マサエの心情の変化を読み取る。 ・　視点に沿って線を引く。 ・　ノートにマサエの心情を書き出す。 ・　マサエの心情の変化を書き出す。	8	・　線を引けない児童に対しては，会話文に着目できるようにし，その前後の文についても読み取るように助言する。 ・　心情の変化を書く時は，根拠となる文を明らかにすることができるようにする。 評　マサエの心情の変化を読み取れたか。 (ノート)→個別指導を行う。	オ　根拠となる文にマーカーで印を付け，見やすくする。 ウ　着目させる文を抜き出したプリントを用意し，考える時間を多く取るようにする。 ウ　ワークシートに書き込みをしやすいようにマス目を付ける。 評　マサエの心情の変化をワークシートに書けたか。

しらべる	5　互いの意見を交流し，マサエの心情変化をまとめる。 ・　おばあちゃんに対する思い ・　おじいちゃんに対する思い 6　わらぐつに見方の変化を考えることによって，「神様」の意味について考える。 ・わらぐつの中に神様がいる。 ・雪げたの中にも神様がいる。 ↓ ［神様は，使う人の身になって，心をこめるものにいる。］ 7　マサエの心の変化をまとめる。 神様の意味が分かり，おじいちゃん・おばあちゃんの温かい真心や生き方に感動している。	20	・　児童の意見を焦点化しそれぞれに対する思いの変化をまとめていく。また，意図的指名を行い，様々な心情の変化に気付くことができるようにする。 評　自分の考えを発表できたか(挙手)。 →　新たに気付いたことも自分の考えの中に加えてよいことを告げる。 ・　教材文に出てきた神様の使い方を抜き出し，神様の意味を考えることができるようにする。 ・　「神様」の意味を一人一人考え，話し合うことができるようにする。 ・　物語全体の主題につながることを感じることができるようにする。 評　マサエの心の変化をまとめられたか(ノート，発表)。	ウ　神様の出てきた部分を抜き出したプリントを用意し，考える時間を多くとる。 ウ　ワークシートに書き込みをする。 オ　話合いのときの注意事項を絵に描いた約束カードを準備し，約束を確認できるようにする(図５）。 評　マサエの心の変化をワークシートに書くことができたか。
読み深める	8　マサエの気持ちになって，その日の日記を書く。 9　本時の場面を音読する。	5	・　マサエの心情に共感するとともに，主題に対する自分の考えを書くことができるようにする。 評　自分の考えをもつことができたか。 (ノート)→自由に書いていいことを助言する。 ・　マサエの心情の変化を意識しながら音読することができるようにする。	エ　教師の質問に答えながら，カードに記入し，「目をかがやかす。」を使った短文を作る。 評　短文を作ることができたか。 イ　カバーシートを使って，読んでいる行が分かるようにする（図６）。
振り返る	10　本時の学習を振り返り，次時の学習の内容を知る。 (1)　やったあカードに記入し発表する。 (2)　次時の学習内容を知り，意欲をもつ。	5	・　自己評価(やったあカード)に記入することができるようにし，読み取りの深まりや広がりの充実感を味わうことができるようにする。 ・　次時の内容を確認し，意欲付けをする。	オ　自己評価カードは、絵を入れて分かりやすくしたり，個別の目標に対応させた項目を準備したりする。

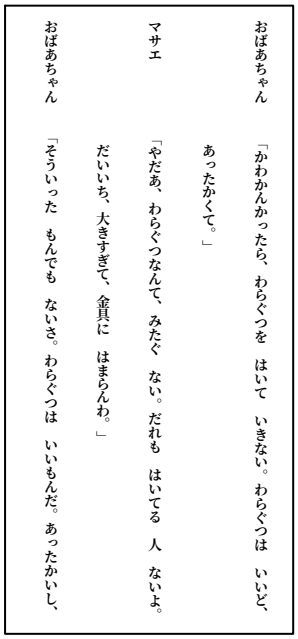

図３

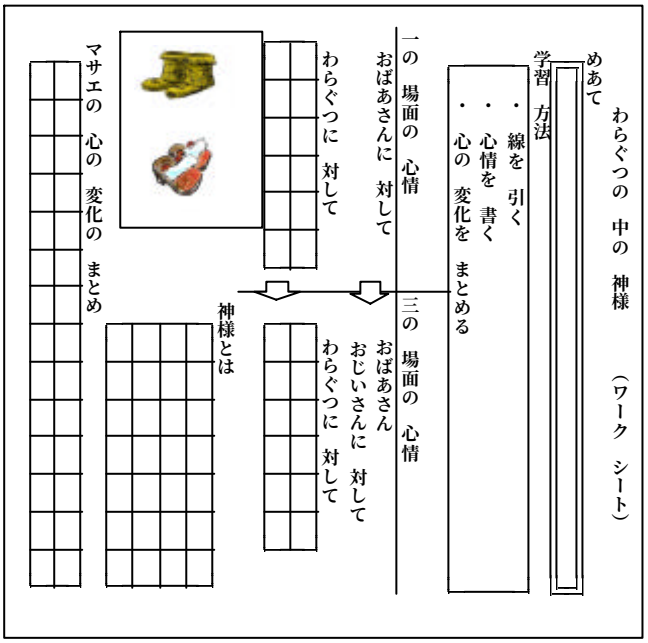

図４

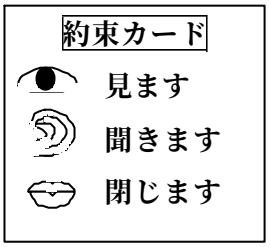

図５

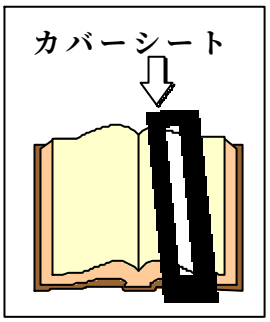

図６

このような配慮や支援を行うことで，特別な教育的支援を必要とする児童生徒にとって「達成感を味わえる授業」となり，ひいては学級全員の児童生徒にとっても「分かりやすい授業」になると考える。

【参考文献】　国立特殊教育総合研究所『小・中学校に在籍する特別な配慮を必要とする児童生徒の指導に関する研究』平成18年

（特別支援教育研修課）